Special Edition

特集　2024年暮らし向き調査結果

当研究所では、奈良県内の消費行動を探るため南都銀行31か店の来店客を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめました（世帯主を対象に毎年調査）。

今回の調査結果では、1年前と比べた暮らし向きＤＩは前回（2023年10月調査）に比べ4.8ポイントの上昇と改善傾向がみられました。また、1年前と比べた消費支出は「物価が高くなった」等の理由により増加（消費支出ＤＩは3.4ポイント上昇）しました。今後1年間については、暮らし向きがやや悪くなる（暮らし向きＤＩが1.3ポイント低下）傾向となり、先行きの厳しさを感じている人が多くなりました。

《要　　約》

①暮らし向き動向

現在の暮らし向きＤＩ(※)は△29.3で、前回（2023年）より4.8ポイント上昇し、改善傾向がみられた。

一方、今後1年間の暮らし向きＤＩは、△30.6と現在より1.3ポイント低下。今後1年間の暮らし向き感はやや悪化することが予想され、先行きの厳しさを感じている人が多い。

※ＤＩ（Diffusion Index）とは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、質問に対して「プラス（良い、増加等）」、「中立（変わらない）」、「マイナス（悪い、減少等）」の3つの選択肢を用意して、「プラス」と回答した割合から「マイナス」と回答した割合を差し引きした指数をいう。

②消費支出動向と増減理由等（複数回答）

現在の消費支出ＤＩは63.1となり、前年比3.4ポイント上昇。

消費支出の増加理由は「物価が高くなった」が最も多く、次いで「出費がかさなった」となった。支出が増加した項目は「飲食料品」が最も多く、次いで「住居（家賃・光熱費等）」となった。消費支出の減少理由は「物価が高くなった」が最多で、次いで「節約した」の順。支出が減少した項目は「飲食料品」が最多で、次いで「衣料品」の順になった。

今後1年間の消費支出ＤＩは△31.6と現在よりも94.7ポイント低下の見通し。消費支出を減らそうと思う理由は「年金や介護費用など老後の生活が不安」が最多となった。年代別では30代、40代、50代、60歳以上は「年金や介護費用など老後の生活が不安」が、29歳以下は「医療費や税金など負担が増えた」が、それぞれ最多であった。

③貯蓄目的（複数回答）

今後1年間の貯蓄ＤＩは18.9で、前年比1.5ポイント上昇した。貯蓄目的は「老後の備え」が最多で、預け入れ商品では「普通預金・通常貯金」が最多。

④今後1年間に購入・支出予定の品目（複数回答）

「国内旅行」が最多となった。次いで「教育・自己啓発費」の順になった。前回と比べて、購入・支出予定が増加したのは「靴・ハンドバック」、次いで「冷暖房器具・エアコン」であった。

⑤サービス・レジャー等に関する支出（複数回答）

1年前と比べたサービス・レジャー等に関する支出ＤＩはすべての項目でマイナスとなっており、最も低いのが「二泊以上の旅行の費用（海外旅行含む）」であった。今後1年間に支出を増やそうと考えているのは「日帰り旅行の費用」が最多で、次いで同率で「一泊旅行の費用」、「外食費」となった。

⑥キャッシュレス決済について

キャッシュレス決済を利用した人の割合は79.9%となり、うち2024年の利用頻度が前年に比べて増加した割合は69.5%で、キャッシュレス決済の利用・定着が進んでいる。

日常的に利用しているキャッシュレス決済手段は「クレジットカード」が最多で、次いで「QRコード・バーコード決済」となっている。キャッシュレス決済を利用する理由は「ポイントや割引などのメリット」に魅力を感じる割合が高い傾向がみられる結果となった。

1．暮らし向き動向

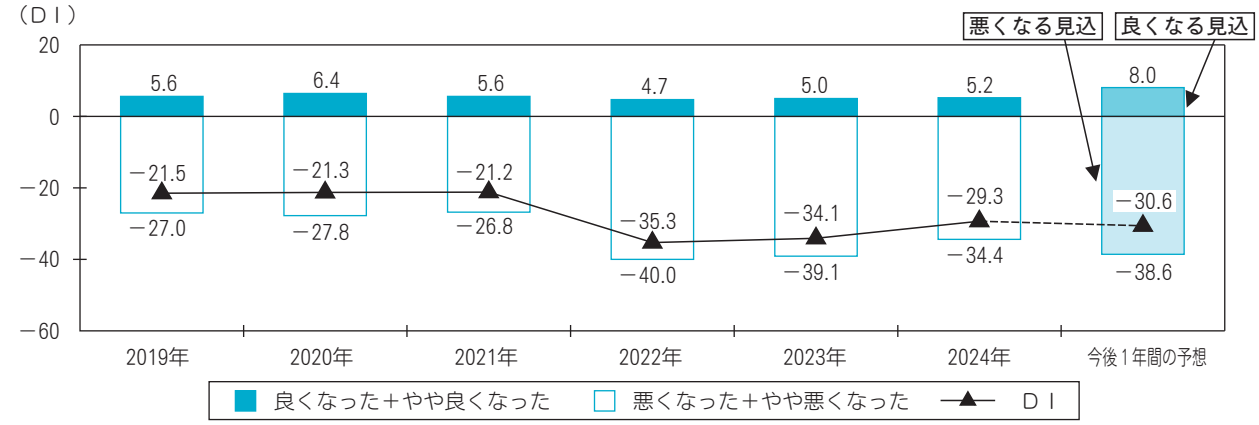
＜現在（2024 年）＞

1 年前（2023 年）と比べた全体の暮らし向き動向をみると、暮らし向きＤＩは△29.3 となり、2023 年の前回調査（△34.1）よりも 4.8 ポイント上昇した。

年代別でみると、前回調査に比べ暮らし向きＤＩが低下したのは、29 歳以下のみで、他の年代はすべて上昇となった。

物価高が家計に影響を与えている状況に大きな変化はないものの、定例給与や賞与の上昇など所得水準に改善傾向が見られることなどがうかがえる。

暮らし向きＤＩ（１年前に比べ）（n＝697）

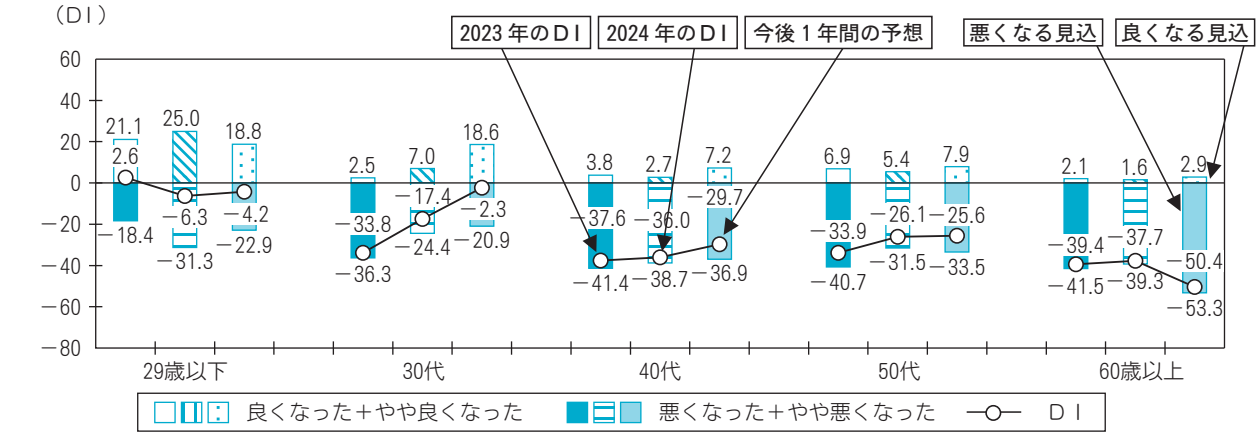


＜今後１年間（2025 年）＞

今後１年間の暮らし向き予想については、全体の暮らし向きＤＩが△30.6 と現在より 1.3 ポイント低下した。今後１年間の暮らし向き感はやや悪化すると予想している。

年代別にみると、幅が大きい順に 30 代、40 代、29 歳以下、50 代はいずれも上昇となっている一方、60 歳以上は△12.7 ポイント低下となった。年金生活者が先行きの暮らし向きの悪化を見込むことに加え、就業者も他の年代ほど所得の向上が望めず、家計の厳しさを感じている人が多いとみられる。

年代別暮らし向きＤＩ（n＝697）



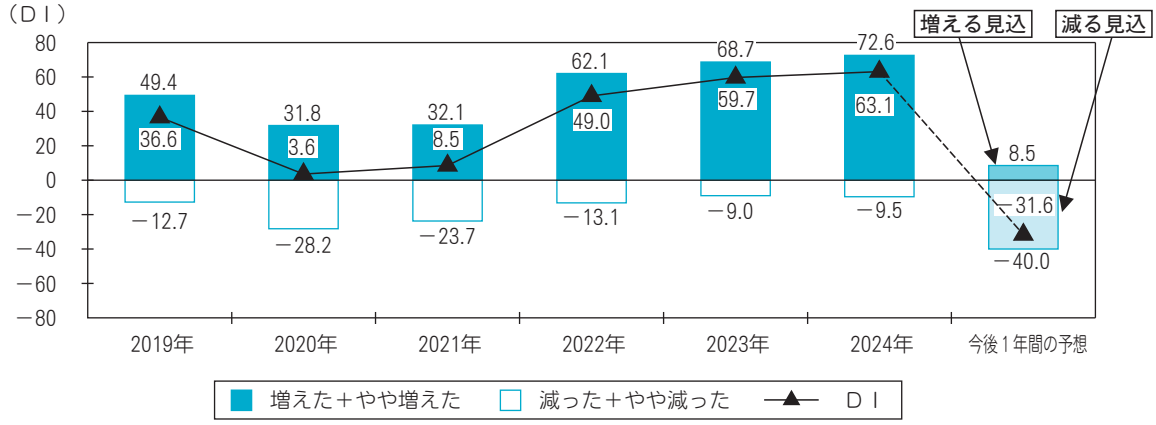
2．消費支出動向

＜現在（2024 年）＞

1 年前（2023 年）と比べ消費支出が「増えた」「やや増えた」と答えた人の割合は 72.6%、「減った」「やや減った」人の割合は 9.5%となり、全体の消費支出ＤＩは 63.1 で、前回（59.7）より 3.4 ポイント上昇した。

物価高の影響で、消費支出は増加傾向が続いている。前回との変化を年代別に見ると、29 歳以下、30 代は消費支出の抑制傾向が見られるが、上昇幅が大きい順に 40 代、50 代、60 歳以上は飲食料品や光熱費等の生活必需品に加えて、教育費等の消費支出が増える傾向がみられる。

消費支出ＤＩ（１年前に比べ）（n＝697）



＜今後１年間（2025 年）＞

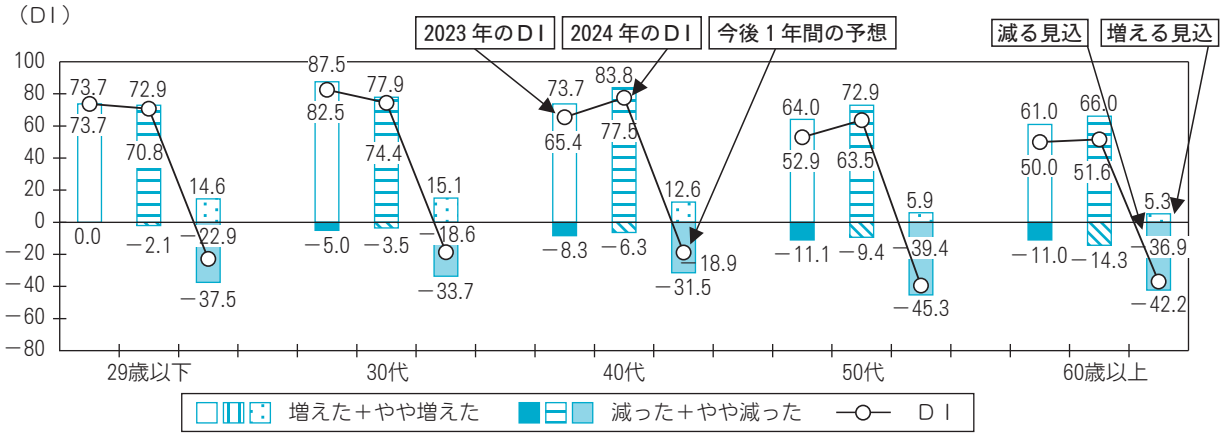
今後１年間の消費支出ＤＩの予想は△31.6 となり、現在よりも 94.7 ポイント低下する見通しとなった。今後の消費支出を、今よりも「減らす」「やや減らす」の割合は、40.0%と拡大した。

今後１年間の消費支出ＤＩは、すべての年代でマイナスとなっており、節約への意識が高まっている。年代別では 50 代（△39.4）が最も低かった。

現在と今後１年間のＤＩ比較は、低下幅の大きい順に、50 代、60 代、29 歳以下、40 代、30 代となった。

年金生活者や今後の所得水準の悪化が見込まれる中高年齢層を中心に将来への不安に備えて、日常生活での支出に節約意識が高い状況があるとみられる。

年代別消費支出ＤＩ（１年前に比べ）（n＝697）



3．消費支出の増減理由等

（1）消費支出の増加理由および増加項目

1年前（2023年）と比べ消費支出が「増えた」「やや増えた」と答えた506人を対象に、その理由をたずねた。回答は、「物価が高くなった」が83.8%で最も多く、次いで「出費がかさなった」（41.3%）であった（図表不掲載）。

支出が増加した項目（複数回答）は「飲食料品」（78.1%）が最も多く、続いて「住居（家賃・光熱費等）」（40.3%）、「教育」（16.4%）の順となった。1年前と比較すると、「住居」が5.9ポイント、次いで「自動車関連」が3.9ポイント低下する一方で、「教養・娯楽」は1.5ポイント、「保健医療」は1.0ポイント上昇するなど心身への自己投資を増やす傾向がみられた。

年代別に最も支出が増加した項目は、すべての年代で「飲食料品」であり、29歳以下（74.3%）、30代（73.1%）、40代（83.9%）、50代（75.7%）、60歳以上（79.5%）となった（図表不掲載）。

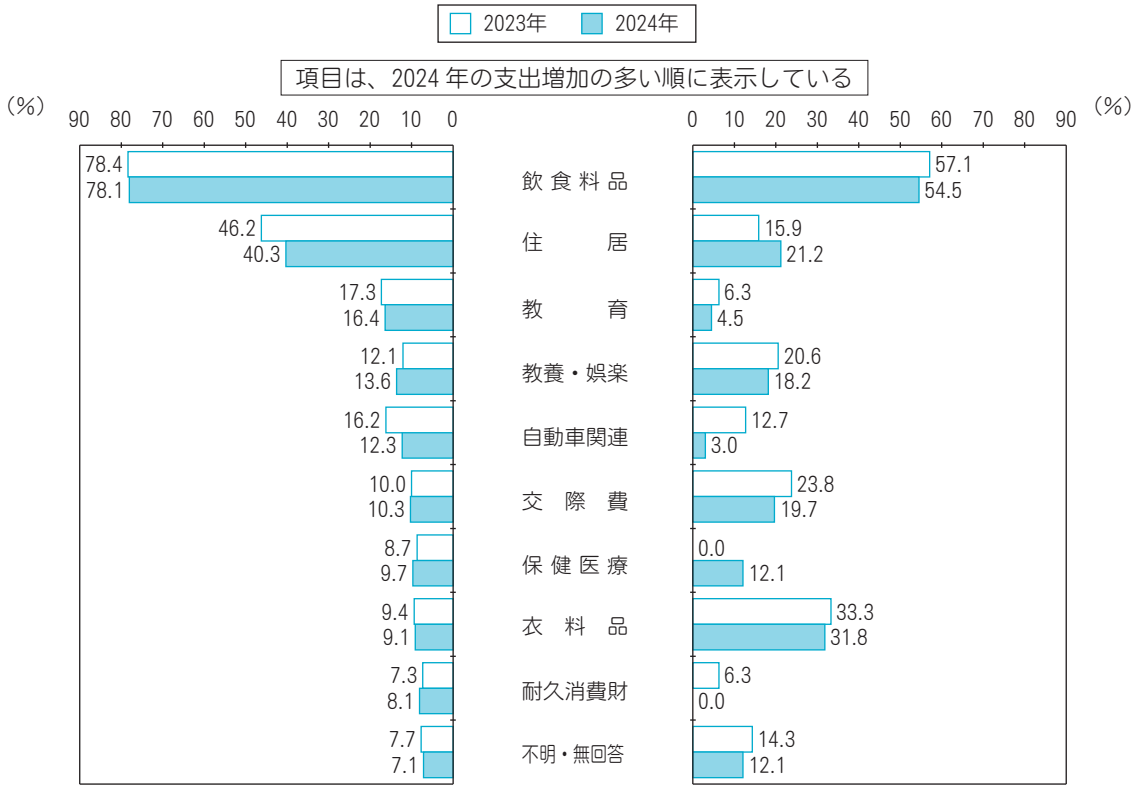
（2）消費支出の減少理由および減少項目

1年前（2023年）と比べ消費支出が「減った」「やや減った」と答えた66人を対象に、その理由をたずねた回答は、「物価が高くなった」が39.4%で最も多く、次いで「節約した」（25.8%）となった（図表不掲載）。

支出が減少した項目（複数回答）は「飲食料品」（54.5%）が最も多いが、物価高の影響で1年前と比較して2.6ポイント低下した。一方で支出が減少した項目のうち「保健医療」が12.1ポイント、「住居」が5.3ポイント上昇するなど、生活関連費を中心に削減可能な消費の抑制を優先する傾向が強まっている。

年代別に最も支出が減少した項目は、30代の「教養・娯楽」（66.7%）以外、他のすべての年代が「飲食料品」で、20代（100.0%）、40代（71.4%）、50代（52.6%）、60歳以上（54.3%）となった（図表不掲載）。

支出が増加した項目（複数回答）（n＝506）　　**支出が減少した項目（複数回答）（n＝66）**



4．今後１年間に消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）

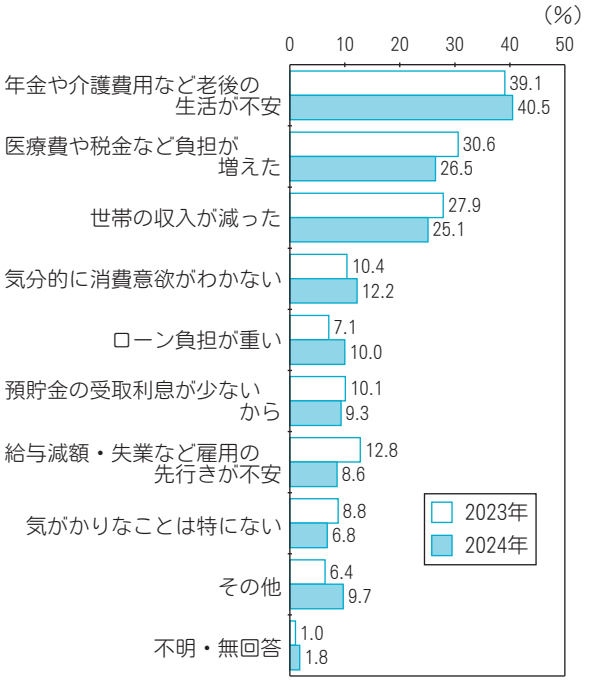
今後１年間の消費支出について「減らす」「やや減らす」と答えた279人を対象に、その理由をたずねた結果、最も多かったのが「年金や介護費用など老後の生活が不安」（40.5％）で、以下「医療費や税金などの負担が増えた」（26.5％）、「世帯の収入が減った」（25.1％）と続いた。

前回も「減らす」理由のトップであった「年金や介護費用など老後の生活が不安」は今回1.4ポイント上昇した。

年代別にみた「消費支出を減らそうと思う」理由で最も多い項目は、「年金や介護費用など老後の生活が不安」で、30代（27.6％）、40代（31.4％）、50代（40.2％）、60歳以上（53.4％）となった。年代の上昇と連動して割合が高くなる傾向がみられた。

29歳以下の若年層では「医療費や税金などの負担が増えた」（27.8％）となった。賃上げによる所得の上昇幅が大きい若年層でも実質賃金が伸び悩むなか、税金等に負担感を持つ人が多いとみられる。

消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）（n＝279）



年代別消費支出を減らそうと思う理由（複数回答）（n＝279）

（%）

理　　由	29歳以下		30代		40代		50代		60歳以上	
	今回（2024年）	前回（2023年）	今回（2024年）	前回（2023年）	今回（2024年）	前回（2023年）	今回（2024年）	前回（2023年）	今回（2024年）	前回（2023年）
年金や介護費用など老後の生活が不安	5.6	30.8	27.6	17.2	31.4	22.8	40.2	41.0	53.4	54.8
医療費や税金など負担が増えた	27.8	30.8	20.7	24.1	20.0	22.8	21.7	27.7	34.0	41.3
世帯の収入が減った	22.2	15.4	10.3	13.8	14.3	26.3	18.5	25.3	39.8	35.6
気分的に消費意欲がわかない	11.1	0.0	10.3	13.8	20.0	14.0	7.6	7.2	13.6	11.5
ローン負担が重い	16.7	7.7	13.8	13.8	17.1	10.5	14.1	8.4	1.9	1.9
預貯金の受取利息が少ないから	16.7	23.1	3.4	3.4	0.0	14.0	8.7	9.6	13.6	7.7
給与減額・失業など雇用の先行きが不安	0.0	7.7	10.3	17.2	0.0	10.5	12.0	16.9	9.7	11.5
気がかりなことは特にない	5.6	15.4	17.2	10.3	5.7	8.8	6.5	10.8	4.9	3.8
その他	11.1	0.0	34.5	3.4	14.3	14.0	6.5	6.0	3.9	3.8
不明・無回答	0.0	0.0	0.0	3.4	2.9	0.0	2.2	0.0	1.9	1.9

（注）合計および各年代において、1番多い理由、2番目に多い理由、3番目に多い理由。

5．貯蓄目的（複数回答）

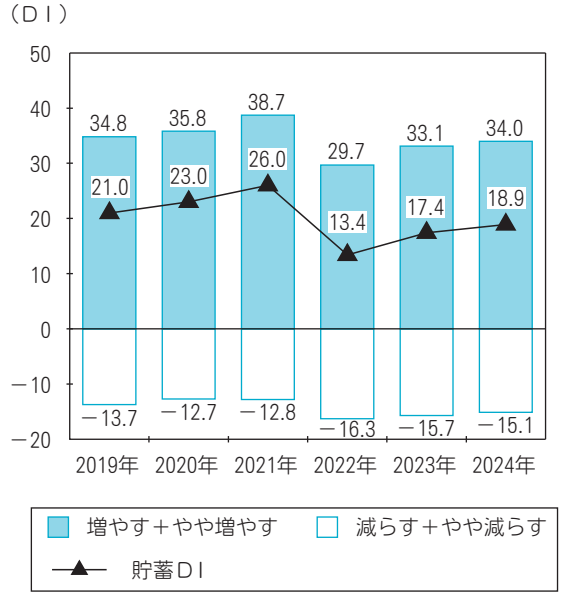
＜全　体＞

今後１年間の貯蓄は「増やす」「やや増やす」が前回よりも 0.9 ポイント上昇（34.0%）、「減らす」「やや減らす」は 0.6 ポイント上昇（15.1%）、貯蓄ＤＩは 18.9 で、前年比 1.5 ポイント上昇した。

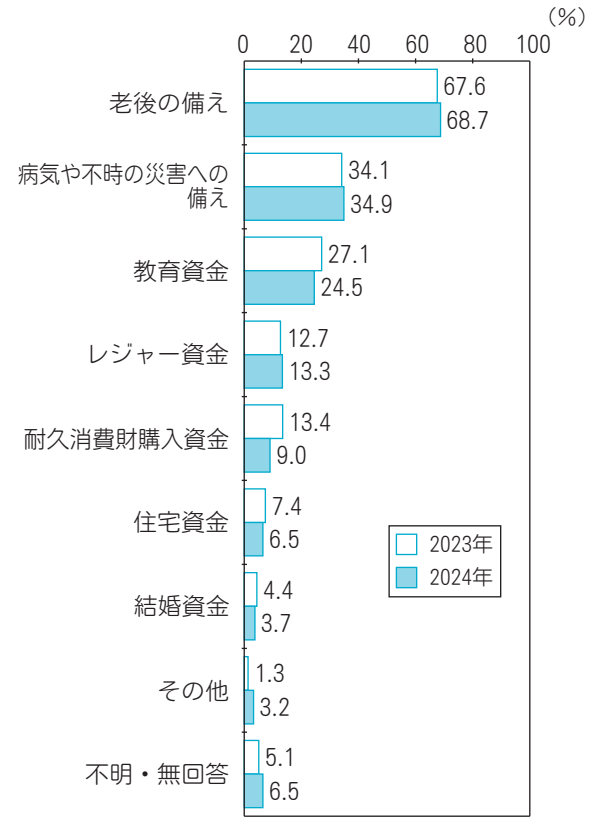
貯蓄の目的では、「老後の備え」（68.7%）が最も多く、続いて、「病気や不時の災害への備え」（34.9%）、「教育資金」（24.5%）の順となった。年代別にみると、29 歳以下（33.3%）、40 代（64.0%）、50 代（77.8%）、60 歳以上（75.4%）は「老後の備え」が、30 代（58.1%）は「教育資金」との回答が最も多かった（図表不掲載）。

今後、貯蓄をする場合に考えている商品の内訳については、多い順に「普通預金・通常貯金」（48.4%）、「定期預金・定額貯金」（39.6%）で、前回よりも金利水準が上昇し、「定期預金・定額貯金」が 7.2 ポイント増加した。

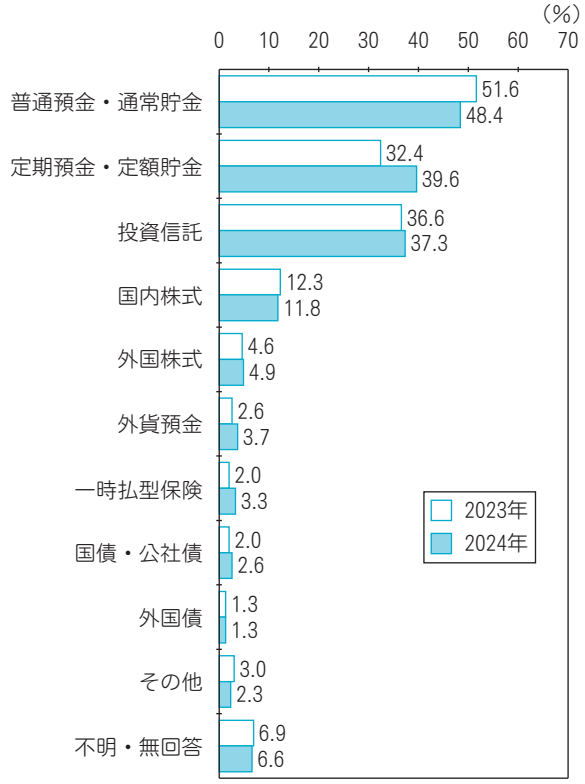
今後１年間の貯蓄ＤＩ（n＝697）



貯蓄の目的（複数回答）（n＝697）



今後貯蓄をする場合に考えている商品の内訳（複数回答）（n＝697）



6．今後１年間に購入・支出予定の品目（複数回答）

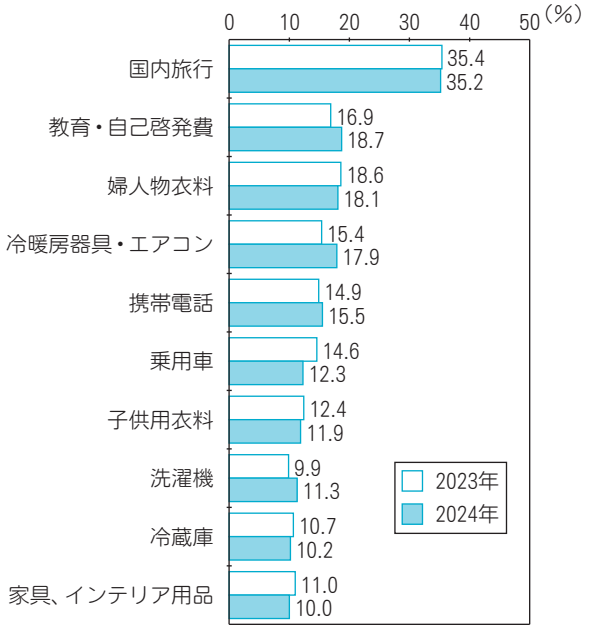
今後１年間に購入・支出予定の品目で最も多いのは「国内旅行」（35.2%）で、続いて「教育・自己啓発費」（18.7%）、「婦人物衣料」（18.1%）、となった。

前回よりも購入・支出予定が最も増えたのは「靴・ハンドバック」（前年比＋2.9 ポイント）で、続いて「冷暖房器具・エアコン」（同＋2.5 ポイント）であった。コロナ禍の行動制限が解け、余暇市場が拡大していることや夏の猛暑による影響がうかがえる。

一方で、最も減少したのが「乗用車」（同△2.3 ポイント）で、続いて「テレビ」（同△1.5 ポイント）であった。

年代別に、購入・支出予定の最も多い品目を見てみると 40 代で「教育・自己啓発費」（36.9%）以外、他のすべての年代が「国内旅行」で、29 歳以下（43.8%）、30 代（40.7%）、50 代（35.0%）、60 歳以上（32.4%）となった。

今後１年間に購入・支出予定の品目（複数回答）（上位 10 品目）（n＝697）



今後１年間に購入・支出予定の品目（複数回答）（今回 n＝697、前回 n＝700）

（%）

	購入予定の品目	合計		差引	年代別									
					29 歳以下		30 代		40 代		50 代		60 歳以上	
		今回(2024年)	前回(2023年)	今回－前回	今回(2024年)	前回(2023年)	今回(2024年)	前回(2023年)	今回(2024年)	前回(2023年)	今回(2024年)	前回(2023年)	今回(2024年)	前回(2023年)
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	17.9	15.4	2.5	8.3	10.5	9.3	11.3	23.4	18.8	17.2	15.3	20.5	16.1
	携帯電話	15.5	14.9	0.6	18.8	26.3	11.6	12.5	21.6	20.3	16.7	13.2	12.7	13.1
	乗用車	12.3	14.6	－2.3	20.8	18.4	8.1	17.5	7.2	15.0	15.3	15.3	12.3	12.3
	洗濯機	11.3	9.9	1.4	8.3	5.3	9.3	2.5	12.6	10.5	10.8	9.5	12.7	12.7
	冷蔵庫	10.2	10.7	－0.5	6.3	15.8	4.7	2.5	11.7	15.0	10.3	10.1	11.9	10.6
	パソコン・周辺機器	9.2	10.6	－1.4	10.4	7.9	10.5	10.0	10.8	9.0	8.9	12.2	8.2	11.4
	テレビ	7.9	9.4	－1.5	6.3	13.2	8.1	6.3	7.2	6.8	5.9	12.2	10.2	9.7
	DVD・ブルーレイレコーダー	1.4	1.1	0.3	0.0	2.6	1.2	1.3	1.8	2.3	1.0	0.5	2.0	0.8
	太陽光発電・蓄電池	0.3	1.0	－0.7	0.0	0.0	0.0	1.3	0.9	0.8	0.0	1.1	0.4	1.3
衣料品・サービス	国内旅行	35.2	35.4	－0.2	43.8	52.6	40.7	41.3	31.5	33.1	35.0	32.3	32.4	36.9
	教育・自己啓発費	18.7	16.9	1.8	14.6	18.4	31.4	30.0	36.9	30.8	21.2	19.6	4.9	3.8
	婦人物衣料	18.1	18.6	－0.5	16.7	23.7	17.4	25.0	17.1	18.0	22.2	17.5	15.2	18.6
	子供用衣料	11.9	12.4	－0.5	12.5	21.1	39.5	38.8	22.5	25.6	6.9	5.3	1.6	0.8
	家具、インテリア用品	10.0	11.0	－1.0	12.5	21.1	18.6	11.3	9.9	12.8	8.9	11.6	7.8	8.1
	紳士物衣料	9.8	8.7	1.1	12.5	7.9	14.0	16.3	8.1	7.5	11.3	8.5	7.0	8.5
	靴、ハンドバック	9.5	6.6	2.9	18.8	10.5	10.5	8.8	6.3	6.8	12.8	6.9	5.7	5.1
	スポーツ、レジャー用品	8.3	8.9	－0.6	6.3	7.9	15.1	11.3	8.1	12.8	7.9	8.5	7.0	6.8
	海外旅行	7.7	8.1	－0.4	12.5	15.8	9.3	3.8	3.6	3.0	9.9	8.5	6.6	11.0

（注）合計および各年代において、1 番多い理由、2 番目に多い理由、3 番目に多い理由。

7．サービス・レジャー等に関する支出

＜現在（2024 年）＞

1 年前（2023 年）と比べたサービス・レジャー等に関する支出ＤＩ（以下サービス等支出ＤＩという）はすべての項目においてマイナスで、最も低いのは「二泊以上の旅行の費用（海外旅行含む）」（△26.7）、続いて「一泊旅行の費用」（△20.9）となった。

サービス等支出ＤＩが前回と比べて上昇した支出は、「日帰り旅行の費用」（前年比＋4.9 ポイント）が最も多く、次いで「外食費」（同＋4.0 ポイント）であった。一方で低下した支出は、「一泊旅行の費用」（同△1.0 ポイント）、続いて同率で「カルチャーセンター等の習い事の費用」、「補助教育費」（同△0.2 ポイント）となった（図表不掲載）。

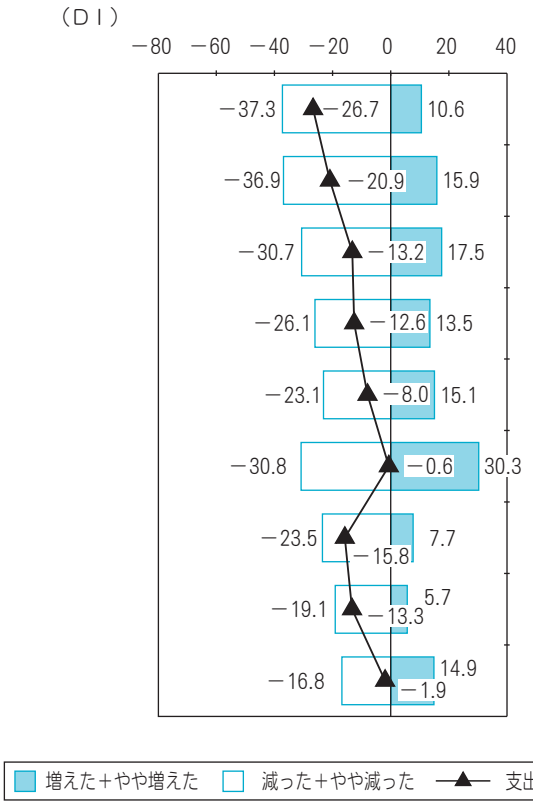
＜今後 1 年間（2025 年）＞

今後 1 年間に、サービス・レジャー等の支出で増やそうと考えているもの（複数回答）は、「日帰り旅行の費用」（35.4%）が最も多く、「一泊旅行の費用」と「外食費」（34.0%）が同率で続いた。

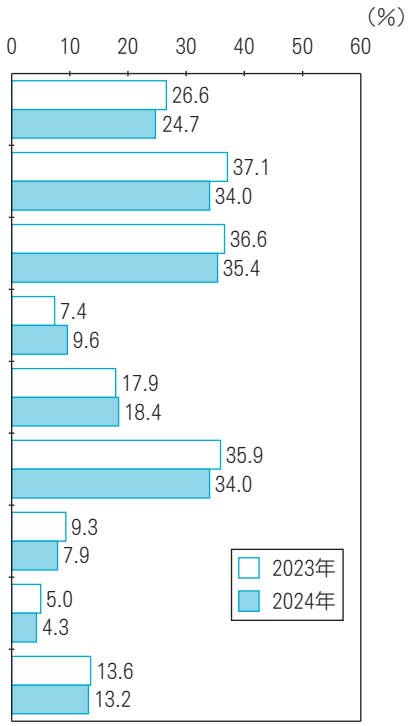
前回と比べて最も上昇した回答は「その他娯楽の費用」9.6%（前年比＋2.2 ポイント）で、身近なレジャーへの人気が高まっている傾向がみられる。

年代別に見ると、29 歳以下（52.1%）は同率で「日帰り旅行」と「外食費」、30 代（43.0%）は「一泊旅行の費用」、40 代（34.2%）は「補助教育費」、50 代（36.5%）は「日帰り旅行の費用」、60 歳以上（36.1%）は「外食費」がそれぞれ最も多かった。（図表不掲載）。

1 年前と比べた支出（n＝697）



今後 1 年間に支出を増やそうと考えているもの（複数回答）（n=697）



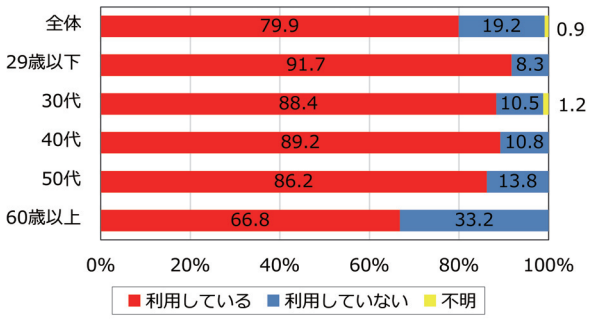
8．キャッシュレス決済について

（1）キャッシュレス決済の利用状況

商品やサービス購入時の支払手段として、キャッシュレスの利用状況については、「利用している」（79.9%）、「利用していない」（19.2%）、「不明」（0.9%）となった。

「利用している」人を年代別にみると、29 歳以下（91.7%）、30 代（88.4%）、40 代（89.2%）、50 代（86.2%）、60 歳以上（66.8%）で、若年層ほど利用状況が高い傾向がみられる。

キャッシュレス決済の利用状況（n＝697）

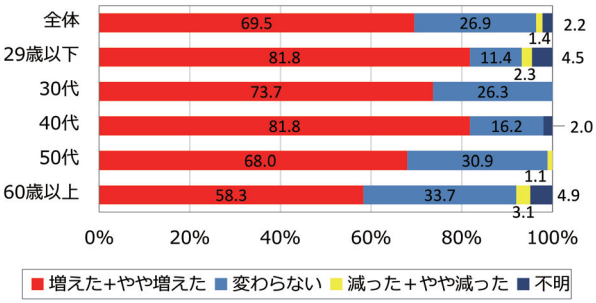


（2）キャッシュレス決済の利用頻度

キャッシュレス決済を利用していると答えた 557 人を対象に昨年と比べた今年の利用頻度について尋ねた結果、「増えた＋やや増えた」（69.5%）、「変わらない」（26.9%）、「減った＋やや減った」（1.4%）、「不明」（2.2%）となった。

「増えた＋やや増えた」と回答した割合が 7 割近くに達するなど若年層を中心に利用頻度が高まっており、キャッシュレス決済の利用・定着がより進んでいる傾向がうかがえる。

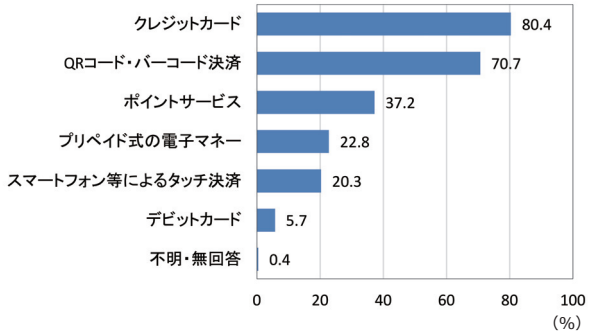
キャッシュレス決済の利用頻度（n＝557）



（3）日常的に利用しているキャッシュレス決済手段について

日常的に利用しているキャッシュレス決済手段については、多い順に「クレジットカード」（80.4%）、「QR コード・バーコード決済」（70.7%）、「ポイントサービス」（37.2%）、「プリペイド式の電子マネー」（22.8%）、「スマートフォン等によるタッチ決済」（20.3%）、「デビットカード」（5.7%）となった。便利で安全な決済手段として「クレジットカード」の利用率が最も高い。最近では「QR コード・バーコード決済」が急激に増加しており、スマートフォンの普及、行政や QR コード決済事業者による導入促進キャンペーンへの取組みなどが増加の要因として考えられる。

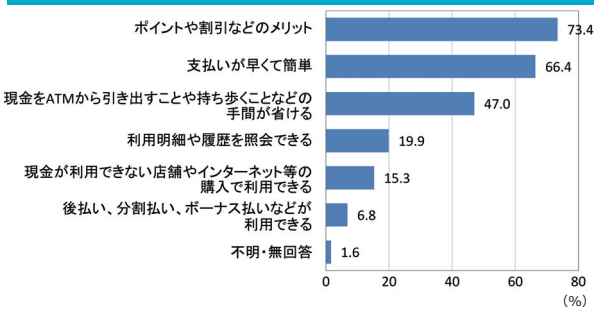
日常的に利用しているキャッシュレス決済手段（複数回答）（n＝557）



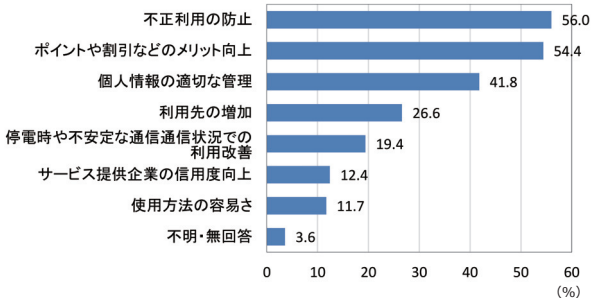
（4）キャッシュレス決済を利用する理由

キャッシュレス決済を利用する理由は、多い順に「ポイントや割引などのメリット」（73.4%）、「支払いが早くて簡単」（66.4%）、「現金を ATM から引き出すことや持ち歩くことなどの手間が省ける」（47.0%）、「利用明細や履歴を照会できる」（19.9%）、「現金が利用できない店舗やインターネット等の購入で利用できる」（15.3%）、「後払い、分割払い、ボーナス払いなどが利用できる」（6.8%）だった。キャッシュレス決済を利用する

キャッシュレス決済を利用する理由（複数回答）（n=557）



キャッシュレス決済について希望する改善点（複数回答）（n=557）



ことでポイントや割引サービスに魅力を感じる割合が高い傾向がみられる。

（5）キャッシュレス決済について希望する改善点

キャッシュレス決済について希望する改善点は、多い順に「不正利用の防止」（56.0%）、「ポイントや割引などのメリット向上」（54.4%）、「個人情報の適切な管理」（41.8%）、「利用先の増加」（26.6%）、「停電や不安定な通信状況での利用改善」（19.4%）、「サービス企業の信用度の向上」（12.4%）、「使用方法の容易さ」（11.7%）となった。

「不正利用の防止」や「個人情報の適切な管理」等、より安全性を重視する傾向がみられる。

キャッシュレス決済を今後一層普及させるためには、セキュリティ面の強化など消費者が抱く不安感の除去への取組みが必要と考えられる。

（井上主税）

【調　査　要　領】

（1）調査場所‥‥　次に掲げる奈良県内の南都銀行店舗　31 か店
本店営業部、南、西大寺、西ノ京、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、天理、桜井、榛原、大淀、上市、高田、高田北、馬見、香芝、真美ケ丘、新庄、御所、橿原、神宮前、王寺、西大和、平群、法隆寺、田原本、五条

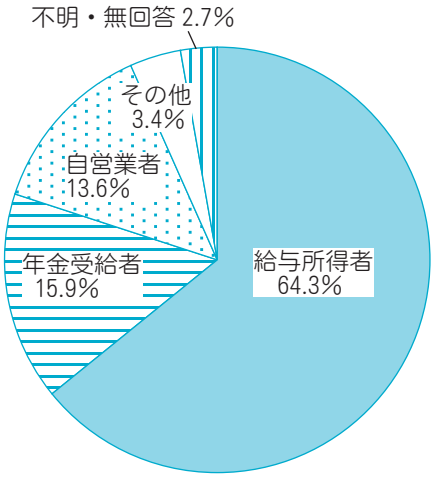
（2）調査日‥‥‥　2024 年 10 月初旬

（3）調査方法‥‥　上記店頭において無記名で記入

（4）調査対象者数　700 人　　うち有効回答者数　697 人、有効回答率　99.6 %

調査対象者（世帯主）の属性

（上段：人、下段：%）

職　　業	29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	年齢不明	全体
給与所得者	40	76	92	167	73	0	448
	8.9	17.0	20.5	37.3	16.3	0.0	100.0
年金受給者	0	0	0	0	111	0	111
	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
自営業者	6	9	15	26	39	0	95
	6.3	9.5	15.8	27.4	41.1	0.0	100.0
その他	2	1	4	5	12	0	24
	5.0	10.0	15.0	20.0	50.0	0.0	100.0
不明・無回答	0	0	0	5	9	5	19
	0.0	0.0	0.0	26.3	47.4	26.3	100.0
合　　計	48	86	111	203	244	5	697
	6.9	12.3	15.9	29.1	35.0	0.7	100.0

世帯主の職業